

[横浜美術館]

令和3年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業
を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 基本方針

(1) 基本的な方針の総括

大規模改修工事による全館休館はR3.3-R5年度中(予定)ですが、R3年度は通年休館となった初めての年となりました。

上半期までにコレクションの外部倉庫への移転を行うとともに、夏には事務所機能と備品等を仮拠点に移転しました。下半期からは、仮拠点および市内各所にて様々な方に向けた教育普及事業を展開し、冬には若手アーティストの展覧会を開始しました。一部、コロナ禍影響によってオンラインに切り替えながらおおむね全事業を計画通り実施することができ、とりわけ、アウトリーチについては多くの活動を行うことができ、当館と地域の多様な連携を示すことができました。

また、大規模改修後に向けた検討については、6月に提出した第3期指定期間(R5~14年度)の提案書を踏まえ、おおむね8月より、必要に応じて館内グループ横断プロジェクト等の体制を組み、国内外の基礎資料調査や他館・関係者ヒアリング等を行い、新たな事業と運営に向けて検討を進めました。

なお、上記の事業や検討の一部は、R2-R6年度の5年間にわたって横浜市等と協力して取組む、文化庁「横浜美術館における文化観光拠点計画」に位置付けられています。

(2)令和3年度の業務の方針及び達成目標の総括

現在は休館中のため、「休館中の事業等」と「改修後に向けた検討」に大別して総括します。

■休館中の事業等

◇広報

- ・移転後の8月より、休館中の事業の発信を開始しました。仮拠点以外での活動を「出前」、仮拠点での活動を「やどかり」と名付け、特設サイトを開設し発信するなど、お客様から見えにくくなる休館中の活動に親しんでもらえるよう努めました。
- ・下半期からは、クリエイティブに強いnoteの美術館公式アカウントを開始したほか、「職員インタビュー」「休館中日記」などを通じて休館中の様子を紹介し、「今月の1作品」などで館の顔であるコレクションを紹介するなど、新しいコンテンツの提供も行いました。これらのコンテンツをより有機的に発信するため、メールニュースをhtml版としました。
- ・また、1/23から約一年にわたり、神奈川新聞でコレクションを紹介しています。

◇外部連携

- ・横浜みなとみらい21が主催する「新たな魅力発見！オンラインツアー」に協力し、美術館建築、コレクション、ワークショップを取り上げ、横浜美術館の多面的な魅力を紹介しました。(文化庁文化観光拠点計画)

◇New Artist Picks

- ・R3・R4年度の2回を「New Artist Picks: Wall Project」と称して、改修中の美術館の仮囲いで展示することとし、その1回目として版画家の村上早の展示を3月より開始しました(会期:3/12-11/6)。

◇コレクション

- ・収集については、10月に内部検討委員会を市庁舎で、11月に収集審査委員会を外部倉庫で開催し、保存については、定期的に外部倉庫の作品を点検しています。
- ・国内巡回展については、昨年度当館で開催したトライアログ展が本年度2つの共同企画館(愛知県美術館、富山県美術館)に巡回し、また来年度には、郡山市立美術館にて当館の日本画コレクションによる展覧会「横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展」が開催される予定です(会期:4/23-6/5)。
- ・コレクション作品画像の撮影・公開については、コレクション1万3千点のうち、昨年度末までに7千点以上の画像を公開しましたが、今年度末で1万点を超える作品画像をウェブサイトで閲覧できるようになりました。(文化庁文化観光拠点計画)
- ・夏より「コレクションの魅力発信プロジェクト」として、コレクションにまつわる日英両語での情報発信を強化し、作品基礎情報(全作品を予定)および作品解説(R4-6に750点を予定)の公開に向けて、データの整備と執筆作業を開始しました。特に作品解説については、幅広い世代の方々を読みやすいよう簡明な文体と表現方法について事前に検討を重ねました。(文化庁文化観光拠点計画)
- ・野村総合研究所若手社員と当館内グループ横断の職員による「YMA&NRI ART DX プロジェクト」を通じて、コレクション鑑賞アプリ「みるみるアート きみはだれ?」を開発し、3/14にリリースしました。

◇美術情報センター

- ・業務で利用する図書資料は、8月以降は定期的に外部倉庫から出納し、また、蔵書のデータ更新・公開を随時実施しています。

◇調査・研究

- ・直近6年間の紀要論文をウェブサイト上で公開しました。また、年度末に紀要を発行しています。

- ・今年度より、紀要の専門性を高めるため、紀要原稿の内容等についてアドバイスする財団内職員を各執筆者が指名するという仕組みの運用を始めました。今後、外部校閲者の導入も検討しています。

◇教育プログラム

- ・鑑賞教育では、過去の振返り、学校向け講座、一般向け講座をほぼ全てオンラインで実施しました。過去の事業のまとめとして、前年度に実施した中高生プログラムの冊子を作成し、これまで実施してきた教師向け鑑賞ガイドウェブダウンロードについての成果を振り返るシンポジウムをオンラインで実施し、また、若者の自立を支援している福祉施設へのアウトリーチについて大学と連携して実施予定の振返りシンポジウムの準備を行うなど、休館中の機会を活用し、年間を通じて過去の活動を総括する事業を行いました。

学校との連携については、コレクションの教師向け鑑賞会、教師向け研修会を開催して、専門性を活かしながら学校の教師、教育委員会他との連携を引き続き継続しました。

一般に向けた講座としては、ボランティアによる横浜の文化史や横浜建築などをテーマにしたアートウォーク(文化庁文化観光拠点計画)と、横浜の文化史の専門家による講座を提供しました。

- ・造形教育(子ども対象・大人対象)では、個人に向けた講座を、各々約10回仮拠点で開催しました。当初は、全て対面での実施を予定していましたが、8月に、コロナ禍の状況を鑑み、令和3年内はオンラインで実施することになり、急遽、オンラインで実施可能な講座の内容に変更しました。

このような状況の変化はありますが、講座の内容については、従来より行ってきた造形講座等を継続しつつ、改修後を見据え、コレクション研究に基づいた講座やタイポグラフィや手芸を用いた現代アーティストによる新領域の講座を、子どもと大人を交えて展開するなど新しい取り組みを行いました。また、高齢者施設へのアウトリーチで連携してきた横浜国立大学と「美術と認知症幻視」について、認知症当事者を招き、学生、一般参加者とともに考える講演会なども実施しました。

そして、教師のためのワークショップも継続し、学校連携を休館中も絶やさないようにしました。同時に、若手職員が「オンライン発信!プロジェクト」を前年度から立上げ、コレクションをじっくり見せる映像、コレクションの移動準備の様子を伝える映像を配信し、さまざまな方が美術館を体験できるよう努めました。

◇市民協働・地域や市民に貢献する事業 : ボランティア

- ・約50人の鑑賞ボランティアが下半期から活動を行いました。上述の通り、当館コレクションに描かれた横浜の各所を巡るアートウォークをオンラインで実施したり、Twitterで丹下建築の魅力を発信するなどしました。(文化庁文化観光拠点計画)

◇市民協働・地域や市民に貢献する事業 : アウトリーチ

- ・コロナ禍を鑑みて、先方との相談の結果、病院、高齢者施設、みどりアップ事業、企業とともに行うHeart to Art事業等の実施を見送りました。このような状況下ではありますが、社会包摂および地域連携を重視し、福祉施設、特別支援学校を含む教育施設、財団内文化施設などへの計画を大きく上回るアウトリーチを行い、また、横浜市芸術文化教育プラットフォームの一環としてプログラムを提供しました。
- ・さらに、18区における財団内および市の文化施設へのアウトリーチについては、館内グループ横断の「横浜[出前]美術館実行委員会」を前年度から始動させ、コレクションに関するトーク、作家によるトーク、子どもあるいは一般向けのワークショップ等を、本年度中に7回実施しました。残りの11区には、大規模改修による休館中にアウトリーチを行う予定です。

◇ショップ・カフェ

- ・移転時期を除き、オンラインショップを継続的に運営しています。

◇施設管理

- ・横浜美術館の施設管理を4-9月に実施し、当初の予定通り、9月30日に市に引き渡しました。
- ・大規模改修については、工事における仕様確認、初度調弁、リニューアルオープンスケジュール、工事中の仮囲い活用などについて、随時市と協議しました。
- ・改修に伴う作品・資料・事務所移動については、事務所機能と備品等を7月下旬に仮拠点に移転させ、また、作品・資料については、8月までに外部倉庫に移転させました。

■改修後に向けた検討

◇横浜トリエンナーレ

- ・ヨコハマトリエンナーレ2023(YT2023)に向け、秋には、現代美術史・国際展の歴史・横浜市の政策などについて職員向けの研修を行い、冬には多様な国籍・性別の選考委員によるアーティストック・ディレクター(AD)の選定を行っています。

◇海外との連携

- ・海外発信についての報告書を作成しました。3つの専門家向け国際会議にオンラインで参加し、コロナ禍での作品輸送の変化や体験型デジタルコンテンツの増加、分断が進む世界の中での多様性を擁護する美術館の意義、様々な世界の課題により柔軟に対応することができる国際展の意義をグローバルな視点から確認し、美術館のキュレーターや巡回展担当や国際展担当者との関係を継続的に構築しています。特に、各会議においてYT2020は、コロナ禍での開催事例として取上げられ、双方向的な関係構築に寄与しています。(参照：提案書事業目標2)

◇広報

- ・広報に関する改修後の方針等について、報告書を作成しました。他館等の調査やヒアリング等を行い、基本方針として、①第3期指定期間の提案書で定めた「はとばエリア(仮称)」における活動発信②コレクションに関わる発信の強化③企画展広報の業務効率化④ウェブサイト・SNSの戦略的運用と業務効率化、の4点を現段階で決めました。(参照：提案書事業目標4)
- ・改修後のウェブサイトについては、ユーザーや専門家等への調査、館内グループ横断の「ウェブサイトリニューアルプロジェクト」での検討を行い、基本方針を策定しました。また、日時指定予約システム、VR等デジタルコンテンツ、英語コンテンツ、美術館周辺回遊策(いずれも文化庁文化観光拠点計画)等の様々なコンテンツを集結するため、各調査を進めています。(参照：提案書事業目標5,6)

◇外部連携

- ・外部連携の改修後の基本方針等について、報告書を作成しました。他館ヒアリングや現在のSDGsへの関心の高まりをしめす各種アンケートなどを参照して、①美術館をとりまく個人・法人のコミュニティーの構築、②市民生活における美術館のプレゼンス向上を目指して、美術館が社会課題の改善に積極的にかかわる「ソーシャルグッド事業」を新たに開拓することを基本方針とする旨、現段階で決めました。(参照：提案書事業目標5)

◇企画展・コレクション展

- ・改修後の展覧会についての検討を進め、展示計画についての方針等について、報告書を作成しました。全グループメンバーによる「新たな美術の価値創造につなげる展覧会の企画検討プロジェクト」を組織し、大手メディアの文化事業部担当者をはじめとする関係者へヒアリング等をし、また、過去の企画展

の分析から R6-7 年度の展覧会の方向性について検討を行いました。

改修後の展示計画については、人目を引く場所に新設されるアートギャラリー3(仮称)とアートギャラリー2の各々の環境に適した展示について議論を重ねました。そして、展示室増加や人流の変化を想定した企画展・コレクション展等の動線計画と人員配置案を検討しました。

また、コレクション展方針については、年間を通してコレクションの名品が常時展示されるコーナーを設ける方針を固め、今後場所や展示内容の検討を進めることになりました。(参照：提案書事業目標 2)

◇コレクション

- ・夏より「コレクションの形成・保全あり方検討プロジェクト」を推進しました。コレクション形成については、市との協議を経て、リニューアルオープン記念美術品購入に関するリサーチ、および記念購入にふさわしい作品の絞り込み、提案を行いました。また、保存については、特に、保存環境とスペース効率の向上に留意し、R5 年度の新収蔵庫への収蔵計画立案にむけて検討を開始しました。また、改修後の展示に向け、修復が必要な作品を洗い出し、優先度の高いものから順次修復を行っています。(参照：提案書事業目標 1)

◇美術情報センター

- ・美術情報センターの改修後の活動方針等について、報告書を作成しました。「「学びの場」づくりに向けて美術情報センターの活動・運営スキームを刷新するプロジェクト」を進め、他館へのヒアリング調査を行いました。改修後の活動方針については、収蔵方針案(①横浜美術館の活動にかかわる図書や資料②所蔵作家のレズネ(総目録)、関連図書③国内外の国際展、芸術祭のカタログや関連図書④丹下健三、横浜の都市計画関連図書⑤教育普及関連図書)と運営方針案(①ライトユーザー向け②専門家向け)をまとめました。なお、組織については、R4 年度に継続的に検討を行い、R5 年度計画案で提案します。(参照：提案書事業目標 3)
- ・所蔵映像資料デジタル化については、開館前後に収集された一般向けの美術番組(磁気テープメディアあるいは 16 mm フィルム)約 840 点から、開館時に制作したオリジナル番組を含む約 200 点を選定して、デジタル化を行い、改修後の公開にむけた準備に着手しました。

◇教育プログラム

- ・教育普及事業の改修後の方針等について報告書を作成しました。若手職員による「e 未来プロジェクト」を立上げ、上半期には、今後 10 年を見据えた教育普及活動全体の理念や枠組みについて、グループ全職員が気軽に意見を出し合うワールドカフェや既存事業のマッピング等を通して課題の抽出を行い、下半期には、個別事業の活動方針について、必要に応じて館内グループ横断で協議を重ねました。鑑賞教育/子ども向け造形教育/大人向け造形教育の活動方針については、①誰もが安心して自分らしくいられる場所②コミュニケーションが生まれる場所③何度訪れても感性が刺激され新しい視点が得られる場所④自ら発見し考える力を養うことを後押しする場所、といった 4 つを暫定的に決定しました。なお、事業の枠組み、組織については、R4 年度に継続的に検討を行い、R5 年度計画案の中で提案します。(参照：提案書事業目標 3)

◇市民協働・地域や市に貢献する事業：コレクション・フレンズ

- ・改修後のフレンズの制度設計については、外部連携の基本方針に則り、R4 年度に継続的に検討を行い、R5 年度計画案の中で提案します。(参照：提案書事業目標 3 および 5)

◇来館者サービス

- ・来館者サービスの改修後の方針等については、R5 年度の立案にむけて検討を開始しました。(文化庁文

化観光拠点計画) (参照：提案書事業目標 4, 6)

◇ショップ・カフェ

- ・ショップ・カフェの改修後の方針等について、報告書を作成しました。他館調査や館内グループ横断の「ショップ・カフェ リニューアルプロジェクト」で検討を行い、開かれた活動についての方針として、①入りやすい・誰にでも開かれた場所②居心地が良い場所③街や社会との接点④記念になる・美術館ならではの、という 4 つの方針を整理し、組織については、直営ではなく委託をすることを現段階で決定しました。(文化庁文化観光拠点計画) (参照：提案書事業目標 5, 6)

◇施設管理

- ・改修後を見据え、「全体デザイン・プロジェクト」を実施しています。この館内グループ横断プロジェクトでは、第 3 期指定期間の提案書の基本的な方針として定めた「みなとモデル」の主理念「多様性」を、家具什器、動線・サイン計画等により具体化するため、建築家やデザイナーと協働して、ワークショップなどを行い、検討を深めました。(参照：提案書事業目標 6)
- ・また、美術館の経費に大きな比重を占める水道光熱費については、改修により水道光熱設備が全面的に更新されるため、改めてその経費を試算しました。同時に、サーバー・PC のリプレースを実施するとともに、業務効率化のための DX 化を検討しました。
- ・改修後に、過去 40 年間のデータ集をウェブサイトで公開するため、館内グループ横断の「美術館の運営・活動記録アーカイブ化プロジェクト」で検討を行い、年報など基礎データの整理と市が保管している作品収集に関する資料調査などを行いました。
- ・リニューアルオープン準備に向け、館内グループ横断のプロジェクトを来年度 4 月より開始し、オープニングに関連する事業や広報の企画・実施を推進します。
- ・第 3 期指定管理事業計画書については、全職員ワールドカフェ等を実施し、6 月に正式に提出しました。

◇法人協賛制度

- ・改修後の法人協賛制度提案については、外部連携の一環として報告書を作成しました。目的を明確にした事業支援を目指し、Heart to Art はコレクション・教育普及・美術情報センター・ソーシャルグッド事業を支援対象とすることを現段階で決定しました。(参照：第三期提案書事業目標 3 および 5)

■収支

- ・収入：大規模改修事業費の精算に伴い当該指定管理料収入が減となり、全体では対予算で減収となりました。その一方で、仮拠点で実施の「やどかり」プログラム収入、オンラインショップ売上、予算時点では未確定だった文化庁補助金獲得等は対予算で増収となりました。
- ・支出：前述の大規模改修に伴う移転経費等が大幅減となり、加えてコロナ禍による海外出張中止や勤務体制見直し等の要因で全体として対予算で減額となりました。但し事業費はリニューアル準備や予算時点では未確定だった文化庁事業を十分に行った結果、対予算増となりました。

参考

- ・R3. 3 大規模改修のため横浜美術館休館
- ・R3. 7 下 横浜美術館から仮拠点であるプロット 48 に移転し業務実施
- ・R5. 9 下 大規模改修を終えた横浜美術館へプロット 48 から移転
- ・R5. 冬 横浜美術館およびプロット 48 で横浜トリエンナーレ開催

4 経営に関する計画

◇政策目標『横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します』

(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>主会場としての当館の特性を活かすと同時に運営組織の構築・基盤整備を行い、国際的ネットワークを構築しながら困難な状況下でも継続的に実施することで、当館の発信力を最大限に発揮するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレへの全館体制での取組みを強化します。 ・H28 に新設した国際グループが中心となり、過去 3 回の横浜トリエンナーレの企画運営に関わった経験と、国内外の国際展に関する知見を基に、横浜トリエンナーレの国内外への発信力をより高める企画運営体制を市に提案し、推進します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3 基本方針(2) 令和 3 年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■改修後に向けた検討 ◇横浜トリエンナーレ」(4 ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●ヨコハマトリエンナーレ 2023 に向けた準備</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■通年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■実施【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/19, 26, 27 職員研修 ・12/7, 2/1 アーティスティック・ディレクター (AD) 選考委員会

(2) 海外との連携 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>当館の発信力の強化に資する事業として、アジアの国々と重点的に連携するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回し、活動を強化します。新たに共同企画など深い協働性を通じた高度な質を目指します。 ・コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 ・H28 に新設した国際グループを中心に、全館体制で推進・強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3 基本方針(2) 令和 3 年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■改修後に向けた検討 ◇海外との連携」(4 ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□海外発信についての調査に基づいた報告書 1 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□1 回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12 月 中間報告、2 月 最終報告

(3) 広報

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、事業および施設の広報を充実させるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・連携体制の充実・強化：①個別の展覧会や事業ごとの宣伝と全館広報の両立、②市民やメディア

<p>アとの信頼と関係強化、③館として発信するパンフレットや刊行物発刊、④ソーシャルメディアの効果的な運用方法の開発を実施し、活動を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの強化：認知度および顧客満足度調査などを試行的に実施し、コンセプト及びターゲットの明確化の推進を、引き続き実施します。 ・首都圏に向けた広報に力を入れます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇広報」(2ページ)・「■改修後に向けた検討 ◇広報」(4ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウェブ等で活動を発信 ●改修後の広報基本方針の策定 ●改修後のウェブサイト充実・公開 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■通年 □調査に基づいた報告書提出 1回/年 ■検討 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 ・8月 18区アウトリーチウェブサイト公開 ・9月 休館中事業プレスリリース発行、休館中特設ウェブサイト公開、休館中発信開始(Twitter 収蔵作家誕生日) ・10月 note公式アカウント公開、メールニュースHTML化、休館中発信開始(①note:18区アウトリーチレポート,職員インタビュー,今月の1点② Twitter/Facebook:横浜美術館クイズ,休館中日記) ・1/23~ 神奈川新聞連載開始(~R4.12) □1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告 ■実施【達成】 ・6月 プロジェクト始動:R5公開予定

(4) 外部との連携

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>営業力の強化に資する事業として、都市型美術館の特色を打ち出すため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市戦略との連携：創造都市、シティセールス、観光プロモーションと連携した事業展開を引き続き実施します。 ・専門性を活かしたネットワークの強化:①社会課題や子どもへの取組みについて財団内連携、②美術家、事業者、NPO、ボランティア、大学等との連携を引き続き実施します。 ・美術館の特色を生かしたオリジナリティの高い事業とするため、より高い質を重視した事業展開を目指します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇外部連携」(2ページ)・「■改修後に向けた検討 ◇外部連携」(4ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●改修後の外部連携に 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □調査に基づいた報 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> □1回/年【達成】

<p>ついて、基本方針と当館組織について検討</p> <p>●外部連携に資する美術館主催会議の実施</p>	<p>告書提出 1回/年</p> <p>■検討</p>	<p>・12月 中間報告、2月 最終報告</p> <p>■実施【達成】</p> <p>・10月 R3-4 実施しない旨決定</p> <p>【追加実績】1件</p> <p>・9/18, 10/23, 12/4, 3/10 オンラインツアー：建築, コレクション, ワークショップ, インバウンド(YMM21 連携) (文化庁文化観光拠点計画)</p>
---	-----------------------------	--

5 事業についての計画

◇政策目標『質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げます』

(1) 企画展

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、そして営業力の強化に資する事業として、展覧会基本方針等に立脚し、質の高い文化活動を実現するとともに、来館者の裾野を拡大するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく開催することを、引き続き実施します。 ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し、共催することを引き続き実施します。 ・コレクションをベースとした企画展の開催を引き続き実施します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■改修後に向けた検討 ◇企画展・コレクション展」(4-5ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●改修後の企画展準備</p> <p>●改修後の展示計画の検討</p>	<p>[達成指標]</p> <p><input type="checkbox"/> 企画展案検討会議 1回/年</p> <p><input type="checkbox"/> 調査に基づいた報告書提出 1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p><input type="checkbox"/> 13回/年【達成】</p> <p>・9月 展覧会会議開始：R6-7 展ほか</p> <p><input type="checkbox"/> 1回/年【達成】</p> <p>・12月 中間報告、2月 最終報告</p>

(2) New Artist Picks

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援するため、継続的に取組み、広報を強化して、一定の入場者数を確保します。また、質の向上に取組むと同時に、展覧会后5年間の作家の活動を把握し成果を確認することで、活動を強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇New Artist Picks」(2ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p>	<p>[達成指標]</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p>

●若手アーティストの小企画展を開催	<input type="checkbox"/> 1回/年	<input type="checkbox"/> 1回/年【達成】 ・3/12 村上早@横浜美術館仮囲い(～11/6)
●展覧会后5年間の作家の活動を把握	<input type="checkbox"/> 1回/年	<input type="checkbox"/> 1回/年【達成】 ・8月 実施

◇政策目標『魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します』

(1) コレクション

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>収集方針に基づき、作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させ、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承し、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集：①市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品収集提案、②現行の中期重点方針を見直し、現状に即した内容に改定して横浜市に提案、3か年ごとの収集計画を策定して収集を促進、③横浜トリエンナーレの機会に話題性のある現代美術作品の収集提言を、引き続き実施します。 ・保存：①作品の安全な保存、②作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所の整備を、引き続き実施します。 ・活用：①原則として年2～3回コレクション展開催（展示構成やテーマ展示などを工夫、人気の高い作品を展示する一方なるべく多くを展示、特に新収蔵作品は迅速に展示公開、同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示、展示方法や展示室の環境整備と情報提供を工夫）、②コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・「3基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇コレクション」(2ページ)・「■改修後に向けた検討 ◇企画展・コレクション展 ◇コレクション」(4-5ページ)参照</p>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コレクションの形成に関する通常業務 ●コレクションの保存 <ul style="list-style-type: none"> ・保存等に関する通常業務 ・改修後の新収蔵庫への収蔵計画立案と準備 ●コレクションの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション国内展 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>内部検討委員会開催 1回/年 ■随時 ■立案 <input type="checkbox"/>1回/2年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>1回/年【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ・10/22 内部検討委員会@市庁舎 ・11/25 収集審査委員会@外部倉庫 【追加実績】1件 ・8月 リニューアルオープン記念美術品購入に関する提案開始 ■実施【達成】 ■検討【取組時期変更】 <ul style="list-style-type: none"> ・10月 R5 立案にむけ始動 <input type="checkbox"/>2回/年【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ・4-6月, 11-1月 トライアログ展巡回@愛知、富山

<ul style="list-style-type: none"> ・コレクション画像撮影・公開 ・改修後のコレクションデータベースおよび作家アーカイブ ・改修後のコレクション展方針の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■撮影・デジタル化・公開 ■拡充 □調査に基づいた報告書提出 1回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施(文化庁文化観光拠点計画) ■実施(文化庁文化観光拠点計画) ・8月 プロジェクト始動：R4-6に750点公開予定 【追加実績】1件 ・3/14 コレクション鑑賞アプリ【HTA：野村総研】 □1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
--	---	---

(2) 美術情報センター

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にとって、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な収集・整理・保管、市民、専門家、子どもなど様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することを、引き続き実施します。 ・横浜トリエンナーレの実施にむけて、関連する美術情報を集積することを、引き続き実施します。 ・開かれた専門性をめざし、他事例の調査に基づいた具体的な取組みを実施します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇美術情報センター」(2ページ)・「■改修後に向けた検討 ◇美術情報センター」(5ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●業務で利用する図書資料の出納(開架図書及び閲覧エリアは休室) ●所蔵映像資料デジタル化・公開 ●蔵書のデータ更新・公開 ●改修後の活動方針(配架案・閲覧室レイアウト・普及活動含む)と組織の検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■随時 ■変換作業/データ整理 ■作業 □調査に基づいた報告書提出 1回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 ■実施【達成】 ■実施【達成】 □1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告

(3) 調査・研究

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>あらゆる美術館活動の基礎としての調査・研究を実施するため、成果は事業に反映すると同時に、紀要</p>
--

<p>などにまとめて社会に還元し、活動を強化します。なお、専門性を広く市民のために役立てるため、専門的活動の効果的な開示を、海外も視野にいれて実施します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3 基本方針(2) 令和 3 年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇調査・研究」(3 ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>● 紀要の発行(論文 3 本以上, 日英併記, 販売検討) [再掲: 日英併記]</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□ 1 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□ 1 回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 月 直近 6 年分紀要の PDF 版ウェブ掲載 ・ 3 月 発行

◇政策目標『美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます』

(1) 教育プログラム：鑑賞教育 [重点的な取組み]

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>教育プログラムの強化に資する事業として、鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を果たすため、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たすため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H24 に組織新設し、鑑賞、創作体験、子ども対象を連動させた独自のエデュケーションプログラムを強化します。 ・ ①ワークショップ、鑑賞会などコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化、②学校連携による鑑賞プログラムを開発、③主にコレクション展のための鑑賞サポートツールの開発を行い、活動を強化します。 ・ 視覚障がい者むけ鑑賞サポートツール開発により、活動を強化します。 ・ 展覧会鑑賞パートナーによるコレクション展ギャラリートーク等の実施を通じて、活動を強化します。 <p>なお、様々なプログラムの試行を踏まえ、横浜美術館の特徴を活かしたオリジナリティある定番プログラムの確立を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質を保ちつつ、市民ならではの視点を活かした個性あふれるボランティア・トークについて、外国人向けなど種類を拡大します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3 基本方針(2) 令和 3 年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇教育プログラム」(3 ページ)・「■改修後に向けた検討 ◇教育プログラム」(5 ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>● 仮拠点におけるワークショップ</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□ 7 回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□ 19 回/年</p> <p>◇ 中高生向け【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/9, 30 中高生プログラム冊子作成(オンライン) ・ 10 月 中高生プログラム冊子完成 <p>◇ 教員向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/12, 9/11 教員向けコレクション鑑賞会(オンライン) ・ 6/5, 6, 20 教師向け鑑賞ガイドウェブダウンロード

<p>●改修後の鑑賞教育方針、事業の枠組み(アートギャラリー1での開かれた活動含む)、組織の検討</p>	<p>□調査に基づいた報告書提出 1回/年</p>	<p>報告会準備【振返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/4 長崎教員向け研修会(オンライン) ・7/28 横浜市芸術文化教育プラットフォーム教員向け研修会(オンライン) ・12/11 横浜市芸術文化教育プラットフォーム教員向け研修会+教師向け鑑賞ガイドウェブダウンロード 報告会【振返り】(オンライン) <p>◇一般向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/13, 12/4, 2/12, 3/19 横浜の文化史講座(オンライン) ・3/2, 3 ボランティアによるアートで街歩き 3回(オンライン)(文化庁文化観光拠点計画) ・3/18 以降ボランティアによる美術館建築発信(オンライン) <p>□1回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月 中間報告、2月 最終報告
--	---------------------------	---

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、子どもの自立を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記を引き続き実施します。なお、鑑賞教育の活動が軌道にのってきた状況を鑑み、子どものアトリエは、創造支援活動中心とし、専門性をより深めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校のためのプログラム：学校連携、鑑賞を仕組み、展覧会の内容や鑑賞ポイントを教師に伝えるレクチャーの開催、教師向けのワークショップ開催 ・個人を対象にしたプログラム：造形活動、鑑賞活動 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等との連携 ・外部連携による事業展開を実施します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇教育プログラム」(3ページ)・「■改修後に向けた検討 ◇教育プログラム」(5ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●仮拠点におけるワークショップ</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□10回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□13回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/6 木の車(オンライン) ・11/13 オリガミ(オンライン) ・11/20 どうぶつ(オンライン)

<p>●改修後の子ども向け造形教育方針、事業の枠組み、組織の検討</p>	<p>□調査に基づいた報告書提出 1回/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・11/27 大日本タイポ組合(アトリエ共催)(オンライン) ・1/29 押忍手芸部(アトリエ共催) ・2/12 ハートグラム 2 回 ・2/26 デカルコマニー(アトリエ共催) ・3/25 教師のためのワークショップ 2 回(オンライン) ・映像公開:9 月 作品移転映像公開 1 月 じっくりみるこの一点 2 作品公開 <p>□1 回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12 月 中間報告、2 月 最終報告
--------------------------------------	---------------------------	--

(3) 教育プログラム：市民のアトリエ

<p>[目指す成果/アウトカム]</p> <p>発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の実施を強化します。なお、著名アーティストなどとの外部連携による新しい分野の講座を開始します。 ・市民の創作活動を支援する事業の実施 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等と連携 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3 基本方針(2)令和 3 年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇教育プログラム」(3 ページ)・「■改修後に向けた検討 ◇教育プログラム」(5 ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●仮拠点におけるワークショップ</p> <p>●改修後の大人向け造形教育方針、事業の枠組み、組織の検討</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□10 回/年</p> <p>□調査に基づいた報告書提出 1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□12 回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/27 大日本タイポ組合(アトリエ共催)(オンライン) ・12/7, 14, 21 粘土(オンライン) ・1/15 イサム・ノグチトーク ・1/29 押忍手芸部(アトリエ共催) ・2/1 認知症幻視体験トーク ・2/19 糸紡ぎ ・2/26 デカルコマニー(アトリエ共催) ・3/12 ライブラリートーク(オンライン) ・映像：11 月じっくりみるこの一点 2 作品公開 <p>□1 回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12 月 中間報告、2 月 最終報告

(4) 市民協働：ボランティア等

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業、多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化（コレクションに関する教育普及）、ビジターサービス機能への市民の力の活用として、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエ運営ボランティア、美術情報センターボランティア育成を、引き続き実施します。 ・コレクション展でのギャラリートークや鑑賞会における展覧会鑑賞パートナーの育成を強化します。 ・ビジターサービスにおける市民およびNPO 法人との協働を強化します。 ・市民との協働については、外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進を検討します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3 基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇市民協働・地域や市民に貢献する事業：ボランティア」(3 ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●鑑賞ボランティア活動(ビジターサービスボランティア活動含む)</p>	<p>[達成指標]-</p> <p>□30 人/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>□47 人/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7 月 募集説明会(オンライン) ・10 月 ガイダンス・活動開始(オンライン)

(5) 市民協働：コレクション・フレンズ

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、美術館活動を支える市民のプラットフォームづくりを実現するため、収蔵作品の保全、展示のための資金をサポートする市民を募る「横浜美術館コレクション・フレンズ」を継続発展させ、強化します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「3 基本方針(2)令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■改修後に向けた検討 ◇市民協働・地域や市民に貢献する事業：コレクション・フレンズ」(5 ページ)参照 		
<p>[取組内容]</p> <p>●改修後のコレクション・フレンズの再構築</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■制度設計</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>■検討【取組時期変更】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 月 R5 立案にむけ始動

(6) 市民協働：各種社会貢献事業

<p>[目指す成果／アウトカム]</p> <p>市民とつながるプログラムの強化に資する事業として、各種社会貢献事業を実施し、高齢者など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市、学校、関連機関、NPO 法人、市民との協働を充実させ、強化します。 ・美術館におけるエデュケーション事業の「美術館アクセス・鑑賞サポート事業」「学校教育連携事業」「環境啓発事業」を実施し、強化します。 ・障がい者向け、学校向け、環境等の講座については、「教育プログラム」として実施し、「市民協働： 		
--	--	--

各種社会貢献事業」においては、美術館に来館できない方に向けたアウトリーチを強化するとともに、美術に関わる人材を育成する人材育成事業を中心に行います。

[成果についての振り返り]

- ・「3 基本方針(2) 令和3年度の業務の方針及び達成指標の総括」の「■休館中の事業等 ◇市民協働・地域や市民に貢献する事業：アウトリーチ」(3 ページ)参照

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●アウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設、病院等、高齢者施設、その他 	<p>□12 回/年</p>	<p>□30 回/年【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇福祉施設・病院・高齢者施設など <ul style="list-style-type: none"> ・1/25 横国大連携授業(高齢者関連)(オンライン) ・3/22 福祉施設 2 か所ワークショップ(オンライン) ・3/23 横浜市西部地域療育センターワークショップ ◇学校向け <ul style="list-style-type: none"> ・11/26 本郷中特別支援学校ワークショップ(オンライン) ・3/18 本郷中職業講話 2 回 ◇教員向け <ul style="list-style-type: none"> ・8/24 市特別支援教育研究会研修@東小学校 (オンライン) ・12/18 市特別支援学校教育研究会@北綱島特別支援学校 ◇近隣 <ul style="list-style-type: none"> ・11/26 日産社員研修講演(オンライン) ・11/27 HCD-net フォーラム 2021 講演(オンライン) ・10/15, 1/25 コレクショントーク【HTA：野村総研】(オンライン) ・12/6 デッサンワークショップ【HTA：野村総研】 ・1/18 男女共同参画センター対話型鑑賞ワークショップ ・1/20 県主催「MICE 連絡会」講演(オンライン) ・2/19 横浜市民ギャラリーワークショップ ・6 月、3 月 3 つの医療施設系団体に「デコ車キット」15 台、20 台、15 台提供【HTA：NTT テクノクロス】 ・7 月 職員家族に「デコ車キット」30 台提供【HTA：野村総研】 ・1 月 5 支店を通じ地域の保育園等に「デコ車キット」160 台提供【HTA：横信】 ◇横浜市芸術文化教育プラットフォーム <ul style="list-style-type: none"> ・10/13, 20, 27 永田台小【三ツ山一志】

・18区	□3回/年	<ul style="list-style-type: none"> ・12/10, 17, 2/28 横浜吉田中【ヒサ クニヒコ】 ・1/24, 2/7, 2/22 本郷中【長島有里枝】 ・2/24, 25 港南中【新井卓】 <input type="checkbox"/> 7回/年【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ・9/11 青葉区 ・10/30 栄区 ・12/4 西区【岩井優】 ・12/18 磯子区 ・1/22 鶴見区 ・2/26 戸塚区 ・3/19 金沢区
------	-------	---

6 施設の運営に関する計画

◇政策目標『お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います』

(1) 来館者サービスの充実

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●改修後の来館者サービスの基本方針および当館組織について検討 	<p>【指標】</p> <input type="checkbox"/> 調査に基づいた報告書提出 1回/年	<p>[実施内容と達成状況]</p> <input type="checkbox"/> 検討【取組時期変更】 <ul style="list-style-type: none"> ・10月 R5立案にむけ始動
--	--	---

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ショップでのオンラインでの販売 ●改修後のショップおよびカフェでの開かれた活動についての方針と当館組織の検討 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実施 <input type="checkbox"/>調査に基づいた報告書提出 1回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 ・7/12-27 オンラインショップ一時閉店 <input type="checkbox"/>1回/年【達成】 ・12月 中間報告、2月 最終報告
--	--	---

◇政策目標『財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します』

(1) 適正な施設管理

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●横浜美術館の施設管理 ●大規模改修 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■4-9月実施 ■通年 市と協働 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 ・9/30 市に引渡し ■実施【達成】 ・7月 全体デザイン・プロジェクト始動：R4内装設計予定 ・8月 DX始動 ・9月 サーバー・PCリプレイス始動
---	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ●改修に伴う作品・資料・事務所移動及び管理業務：改修に伴う作品・資料の移動及び民間倉庫における管理業務、改修に伴う事務所移転及びプロット 48 管理業務 ●改修後の開館 30 周年 データ集ウェブ公開に向けた準備 ●リニューアルオープン準備 ●第三期指定管理事業 計画書準備 	<ul style="list-style-type: none"> ■通年 ■データ整理 ■通年 □調査に基づいた 報告書提出 1 回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 ・7/22-26 事務所機能等移転 ・8 月 作品・資料の外部倉庫移転完了 ■実施【達成】 ・8 月 プロジェクト始動：R4 和文完成予定 ■実施【達成】 ・12 月 R4 からのプロジェクト始動決定：オープニング事業実施予定 □1 回/年【達成】 ・5/18 ワールドカフェ ・6/21 正式提出
--	--	--

(2) 経営基盤の強化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●改修後の法人協賛制度の提案 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □調査に基づいた 報告書提出 1 回/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> □1 回/年【達成】 ・12 月 中間報告、2 月 最終報告
--	--	--

(3) 人材強化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学芸員、エデュケーター育成 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 ・2/4 著作権研修 ・3/15 アーカイブ研修
--	--	---

7 その他：政策協働

◇政策目標『政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します』

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市の政策と事業の相互連携 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■随時実施 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実施【達成】 ・4/20, 6/11, 8/13, 10/12 政策経営協議会 ・7/30, 10/29 外部評価委員会 ・1/15, 29 外部評価委員視察対応
---	---	--

●外部意見の取入れ ・外部有識者を交えた 教育普及企画運営会 議	<input type="checkbox"/> 1回/年	<input type="checkbox"/> 1回/年【達成】 ・2/4 勉強会実施
●年報発行	<input type="checkbox"/> 1回/年	<input type="checkbox"/> 1回/年【達成】 ・6/15 発行

8 組織

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	<input type="checkbox"/> 計 46人 ・館長 1人 ・副館長 2人 ・グループ長 5人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 29人	<input type="checkbox"/> 計 46人 ・館長 1人 ・副館長 2人 ・グループ長 4人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員 29人

9 留意事項

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 ●情報公開への積極的取組 ●市及び関係機関等との連絡調整 ●その他 1) 許認可及び届出等 2) 施設の目的外使用 3) 人権の尊重 4) 近隣対策 5) 重要書類の管理 6) 行政機関が策定する基準等の遵守 7) 法令の制定及び改正への対応	■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口を設置し対応 <input type="checkbox"/> 個人情報保護研修 1回/年 ■財団事務局に情報公開窓口を設置し対応 ■横浜市や関連機関との連絡緊密化 ■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	■実施【達成】 ■実施【達成】 <input type="checkbox"/> 1回/年【達成】 ■実施【達成】 ■実施【達成】 ■実施【達成】

10 特別事業

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●大規模改修	■実施設計および引越しのついで、市の計画に基づいた迅速な対応と協力	■実施

(指定管理者が記入する様式)

令和3年度 「横浜美術館」 収支報告書

収入の部

(税込、単価：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	1,100,000,000		1,100,000,000	1,035,599,990	64,400,010	横浜市より
文化施設運営事業	700,000,000		700,000,000	700,000,000	0	
横浜美術館大規模改修事業（作品等移転費）	400,000,000		400,000,000	335,599,990	64,400,010	移転関係費経費減による精算
利用料金収入	300,000		300,000	282,000	18,000	図版使用料
自主事業収入	1,050,000		1,050,000	1,365,044	△ 315,044	造形講座料、アウトリーチ収入等
雑入	600,000	0	600,000	21,454,660	△ 20,854,660	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料収入	0		0	0	0	
その他（ショップ）	600,000		600,000	5,358,660	△ 4,758,660	オンラインショップ売上収入増、館内施設貸出等
その他（協賛金、補助金、寄付金）	0		0	16,096,000	△ 16,096,000	企業協賛金、寄付金、文化庁補助金等
収入合計	1,101,950,000	0	1,101,950,000	1,058,701,694	43,248,306	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	340,583,000	0	340,583,000	318,092,147	22,490,853	
給与・賃金	275,887,000		275,887,000	258,168,962	17,718,038	職員、派遣職員人件費
社会保険料	44,270,000		44,270,000	40,586,936	3,683,064	
通勤手当	6,023,000		6,023,000	6,920,812	△ 897,812	
健康診断費	0		0	0	0	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	
退職給付引当金繰入額	14,403,000		14,403,000	12,415,437	1,987,563	職員配置調整により減
事務費	10,658,000	0	10,658,000	7,217,898	3,440,102	
旅費	510,000		510,000	163,316	346,684	出張費
消耗品費	900,000		900,000	625,642	274,358	新聞、日常消耗品
会議謝礼金	0		0	0	0	
印刷製本費	417,000		417,000	280,336	136,664	封筒、名刺
通信費	2,037,000		2,037,000	1,775,567	261,433	郵送料、電話料金等
使用料及び賃借料	926,000	0	926,000	1,540,124	△ 614,124	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	926,000		926,000	1,540,124	△ 614,124	コピー機レンタル料等
備品購入費	0		0	0	0	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	130,000		130,000	63,900	66,100	
職員等研修費	58,000		58,000	50,000	8,000	研修、講習費等
振込手数料	540,000		540,000	346,672	193,328	
リース料	0		0	0	0	
手数料	4,097,000		4,097,000	1,337,341	2,759,659	産廃処理料等
地域協力費	1,043,000		1,043,000	1,035,000	8,000	各種年会費
事業費	71,018,000	0	71,018,000	79,066,208	△ 8,048,208	
自主事業費	71,018,000		71,018,000	79,066,208	△ 8,048,208	アウトリーチ実施費、作品図書保全費、ウェブサイト運営費等
移転関係費	400,000,000	0	400,000,000	335,599,990	64,400,010	入札に伴う経費減、光熱費減、美術館大規模改修に伴う経費減（事務所等移転、作品・図書移転、仮拠点整備・管理費等）
管理費	141,621,000	0	141,621,000	105,746,160	35,874,840	
光熱水費	68,063,000	0	68,063,000	46,163,060	21,899,940	
電気料金	66,763,000		66,763,000	45,025,813	21,737,187	事務所移転時期前倒しによる減
ガス料金	0		0	0	0	
水道料金	1,300,000		1,300,000	1,137,247	162,753	
清掃費	5,540,000		5,540,000	4,353,200	1,186,800	事務所移転時期前倒しによる減
修繕費	2,500,000		2,500,000	344,300	2,155,700	移転前の緊急修繕対応の減少および事務所移転時期前倒しによる減
機械整備費	3,240,000		3,240,000	3,225,516	14,484	
設備保全費	62,278,000	0	62,278,000	51,660,084	10,617,916	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	
消防設備保守	1,100,000		1,100,000	834,700	265,300	
電気設備保守	0		0	0	0	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	61,178,000		61,178,000	50,825,384	10,352,616	設備、警備、ネットワーク、設備保守委託費等、事務所移転時期前倒しによる設備及び警備委託費、仕様減によるサーバーリプレイス等の経費減
共益費	0		0	0	0	
公租公課	38,298,000	0	38,298,000	44,096,645	△ 5,798,645	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	38,259,000		38,259,000	44,057,500	△ 5,798,500	事務局積算による数値
印紙税	23,000		23,000	24,600	△ 1,600	
その他（固定資産税）	16,000		16,000	14,545	1,455	
事務経費 （計算根拠を説明欄に記載）	99,772,000	0	99,772,000	83,777,645	15,994,355	
本部分	74,277,000		74,277,000	74,277,000	0	事務局積算による数値
当該施設分	25,495,000		25,495,000	9,500,645	15,994,355	事務等運営経費の減
二一ス対応費	0	0	0	0	0	
支出合計	1,101,950,000	0	1,101,950,000	973,596,693	128,353,307	
差引	0	0	0	85,105,001	△ 85,105,001	財団職員の人事異動により、予算より9,668,000円職員人件費が減少している分を含んでいるそのため実質的な収支差額は、75,437,001円である